

お経について（その1）

お経の意味と役割

先月号のお釈迦様シリーズより、お経シリーズへと移行します。まずはお経の意味と役割について、簡単に見ていきましょう。

お経に書かれている内容や、本来の役割について紹介します。

【お経の内容】

お経は、お釈迦様から伝えられた教えを弟子たちが再編したものです。「経典」や「仏典」とも言われます。はじめは口頭で伝えられ、後に文書化されました。種類は大きく、経蔵、律蔵、論蔵の三つに分けられます。これをまとめて、「三蔵」と呼びます。三蔵に詳しいお坊さんを「三蔵法師」と呼びますが、西遊記で有名です。

それぞれの内容を見ていくと、「経蔵」は、お釈迦様の教えをまとめたものです。「律蔵」は、弟子として守るべき規則をまとめたもので、道徳、生活のことなどが書かれています。そして「論蔵」は、経蔵と律蔵の二つを分析し、注釈や解釈がつづられたものです。

【お経本来の役割】

お経は、この世を生きている人が幸せな道を歩めるように、と作られました。心の苦しみと向き合い続けたお釈迦様が、人々に伝えたアドバイスのようなもの、と考えればわかりやすいかもしれません。



住職レター

「ご法事に参勤して、ご年配の方から、「ワクチンを打ちましたよ」、「ワクチンの予約が取れましたよ」と、笑顔で話して下さることが増えました。ワクチン接種が進むと、コロナの終息が見えてくるでしょう。

新型コロナウイルス感染拡大防止は、人と会わない事、人と距離を取る事、当然、マスク着用の上です。そして人流の抑制。外出の自粛が要請されたことから、在宅勤務（テレワーク）の導入が進み、会議はオンラインが主流となり、オンラインで飲み会も行われるのだとか。

オンラインは味気ない、オンラインでは心が伝わらない、オンラインのコミュニケーションは難しい、そのように言われますが、慣れれば全く問題ありません。

つい先日、ご門徒宅の四十九日法要に参勤した際、カナダ在住の娘さんがオンラインでお勤め下さいました。コロナ禍ゆえ、日本への帰国は叶わず、でも先祖の法事には参勤したい。その思いが、オンラインにて成就しました。最近のオンラインはネット環境が良いせいか、日本とカナダのコミュニケーションも全く違和感なし。お経も法話も

カナダまで届きました。その場に居合わせなくても、心と心の触れ合いが、十分に出来た、そんな法事でした。

善教寺からオンライン法事、いつでも可能ですよ。写真のようにスタンバイ完了しました。

法事は勤めたいけど、集まるのは不安、時間的に難しい、息子と娘が遠隔地、そんな問題は、このオンライン法事で解決です。ご依頼、お待ち申しあげます。

